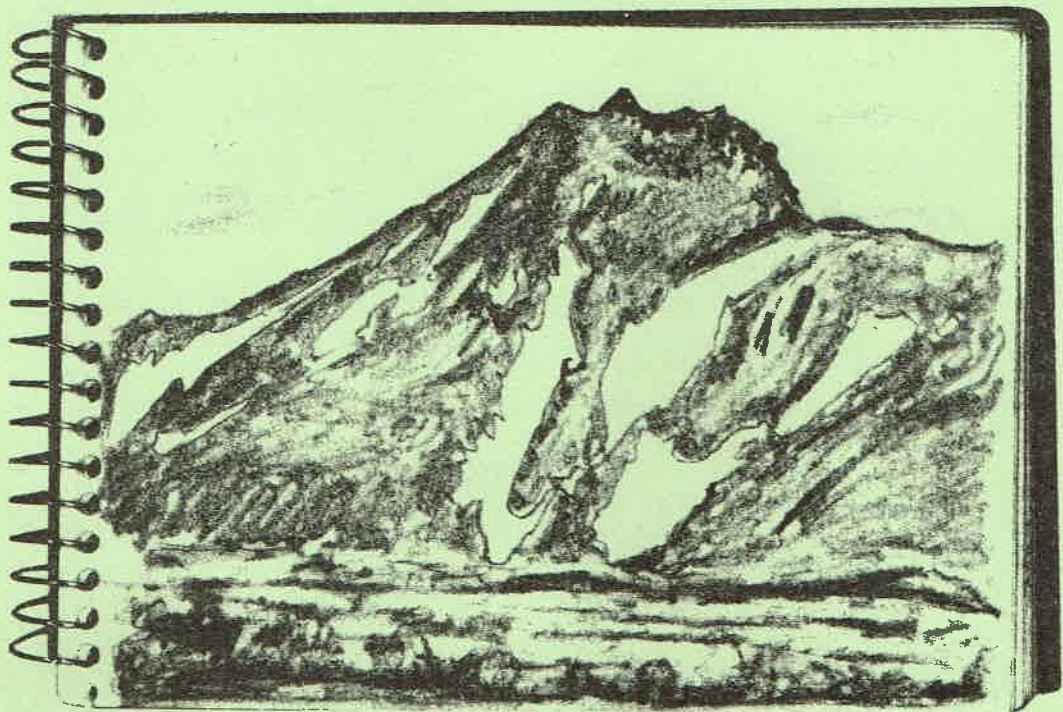


エゾマツ



No. 49

1999. 6. 20

北海道ボランティア・レンジャー協議会

1. 巻頭言 「有り難う観察会」に学ぶ	会長代行 川端 功治	(1)
2. キャンペーンスローガン		(3)
3. 会員の声		(4)
4. 4月以降の活動		(5)
5. 旭川自然観察会	五十嵐 一夫	(6)
6. 「けらつつき」との出会い	菊池 秀樹	(7)
7. 本の紹介		(9)
8. 第14回 定期総会の報告と議案書		(10)
9. 北海道ボランティア・レンジャー協議会会則		(20)
10. 観察会・研修会情報		(23)
11. ボランティア・レンジャー育成研修会		(25)
12. フォレストガイド養成講座Ⅱ		(30)
13. 編集後記		(33)

「有り難う観察会」に学ぶ

会長代行 川端 功治

研修部の諸君から企画立案を見せられた時は、「ハッ」と虚を突かれた思いでした。今までは野幌森林公園の樹や草に向って「有り難う」の感謝の気持ちを現すどころか、不平たらたらで、苦情ばかりをならべていたのが自分だったのです。

札幌と云う大都市を控えた近郊だけあって、行楽、遊歩、健康作りのジョキング、等々、年々この森を利用するする人が増えているようです。それ自体は結構な筈ですが、散乱するゴミ、増える一方のゴミをどうすればよいのか。

タイムレースかと思わせるスピードで走り抜ける自転車。ゼツケンも誇らしげな競技会のランナー。それを支援する交通整理者や応援隊の指揮によって、我々自然観察者のグループも、道路縁に並び声援を贈ることを余儀なくさせられます。そして闘い終わって残ったのは散乱したゴミが一杯。

近年スポーツの為の施設は数を増やし、その内容も随分と充実されたと聞くがなぜに野幌の森林公園に入り込むのか。その為逆転の発想から路の片側の草刈りを中止してもらい、世論の反応を見ることにした事とがあります。

この施業の大義名分は道路縁はライバルが少ないから、ラン科の仲間が好んで生えていましたが刈り込み過ぎで、絶滅しそうになつたとして片側の草刈りを止めたことがありました。ところが忽ち苦情が殺到、曰く衣服の裾が濡れる、ブヨカが増えた、ヘビやトカゲが気味が悪い、果ては作業員の手抜きか、公園事務所の予算ケチリか、の非難を浴びて、再び刈り払いが始まり、いまは何時でも綺麗な道路なのです。悪の根源はこの立派な道路にあるのだ！と叫んでも誰も相手にしてくれません。そうすると日頃お世話になつている「森さん」に恩返しするの

はのは5月9日の「ゴミを拾いながらの観察会」のスタイルはパンチの効いた方法と云うことになります。

始めの研修部リーダーの説明に共鳴した参加者は、それぞれゴミ入れを手に行動開始、元気子供が飛び出してイの一番にゴミを拾って得意顔。走りだした子供を追ってママさんがなにか叫んでいる賑やかさ。私が期待していたのは、この賑やかさでした。何時もの生真面目なレツスン風景の観察会では飽きがきます。

たとえ観察会が初参加でも、ゴミ拾いの大役を果たしていると言う自覚があれば誰でも胸を張って一人前に行動するから、明るさと賑わいが溢れるのです。

ゴミを拾う時に膝を曲げると目線の位置が低くなる。そうすると普段は見過ごしていた芽生えたばかりの植物が、特異な姿として目に写る。質問はレンジャーに集中するので、ベテランのレンジャー達も対応に苦労したようでした。

ヤブサメを見つけた子供に、何度も教えて貰ったが、ついにその姿が見られず囁りも聞き取ることが出来なかった老人が、ボヤキにわざわざ私の所へ寄って来たのは正解でした。老人の悩みは老人同志で。高周波の囁りは本当に聴きにくい。

こんな賑やかで楽しい観察会は初めての経験でした。

ファイナーレはゴール地点で鳥合わせ、花合わせ。聞き損ねたり、見落とししたり、自慢話やら嘆きやらで、悲喜こもごもの長閑かな風景でした。

そして最後は本日のメインテーマゴミ合わせ？ ペットボトル、空き缶は予想どおりでしたが、なぜか家庭の排出するゴミらしきものが多いのに驚きました。驚くのはまだ早い。テレビが一台。さらにビックリしたのは生きた子猫が2匹。親を探し求めて泣き叫ぶその声は参加者一同の胸をかきむしりました。こんな酷いことをするのはどんな人だろうか。

途方に暮れる参加者に救いの手がのべられました。公園事務所がなんとかしますとの申し出にホツと胸をなで下ろし、無事解散となりました。

長々と今回の観察会の状況をお伝えしたのは、観察会がマンネリ化しているのではないかとの批判や、自己反省もあって、この「ありがとう観察会」の成果に、

多大の期待を掛けていましたところ、予想以上の効果を収めた興奮が、未だ止まらずと云ったところです。企画立案実行を完璧になし遂げた研修部の皆さんや協力に労を惜まず、頑張ってくれたレンジャーの皆さん、まことに御苦勞様でした。



キャンペーンスローガン

自然との共存 21世紀に向けて!

林の中を歩いている、山道を歩いているでも必ず空き地や草むらに、空き缶やビニール袋等のゴミが転がっているのにお気付きでしょう。ゴミ捨てをしてはいけないことは、子供も大人の十分承知しています。けれども、人目のないところで平然と捨ててしまいます。その結果が自然を汚し、自然破壊へとつながっていきます。

自然環境の保持には、組織的・協力的な行動が必要なことは言うまでもないことですが、それを実行に移すきっかけや決断がどうしても希薄になります。本会でも遅ればせながら本年度よりゴミ拾いの実践活動に取り組み始めました。

会員の大槻日出男氏は、会報誌エゾマツ42号の中で「…森林が好きで森を学び楽しみに来る人々、つまり森林から何かを受け取る受身の人々が、おたがいの協力や学びのなかから森林生態系を理解し、その保護に取り組む、その学びや行動を楽しむ人々へと変化すること。…」と述べています。

自然の恵みの恩恵をうけつつ私たちの自然に対する良識を呼び覚ます運動を21世紀につなげていきましょう。

会員の声

札幌市南区 小泉 郁夫

万年下見会員として自他ともに認められている私ですが、年に一度だけ、友達仲間うちの解説員を勤める。私のニセコのカントリーハッチに毎年一回集う8家族16人の仲間達と、初秋の野山をおしゃべりを主としながら歩く。

昨年9月、歌才湿原とブナ林を楽しみ、アブラガヤ、ウメバチソウ、エゾリンドウなどを説明した。皆さん私の実力を知っているのて、恥をかかせるような質問は誰もしない。“自然の家”に全員で泊まり、夜の研修会?が一番盛り上がったことは論を待たない。

今年も下見会員で学ぼう。ささやかな自然探索会の計画を待っている仲間がいる。

札幌市清田区 勝見 捷子

日頃より名前だけのボランティア・レンジャーを申しわけなく思っています。山頂ばかり見ていた視線が、麓の森や林に移ってから、多くの事を学び、知る事の楽しさ、何故?どうして?覚えられない難しさも痛感しています。

詳しい説明は出来なくても将来、小さな子供たちを森や林の中に誘い遊ぶことを夢見ています。

今年も住所不定の身ですが、時間を作っては観察会に参加させていただきたいと考えています。

十勝川水系上流部へのサケの遡上一步前進。5月19日十勝エコパーク推進協と三漁業組合（大津、広尾、大樹）の組合長・参事が出席「十勝川水系」でのふ化放流事業を住民運動として取り組んでいくことに理解を示し、「帯広サケの会」の15年にわたる活動を評価された。

今後、定期的に意見交換し、サケ遡上の課題を整理していくことを確認し、将来十勝川流域会議（円卓会議）に出席する事に成った。

現在千代田堰堤で親サケが捕獲され、さけます増殖事業の資源になっている。



4月以降の活動

- | | |
|----------|--|
| 4月10日(日) | ・平成11年度定期総会
*研修会(講師 大槻日出男氏)
*定期総会
*懇親会(北1西5興銀ビル1F「ユック」) |
| 4月15日(木) | ・4月の森の観察会 開拓記念館前集合 |
| 5月9日(日) | ・野幌森林公園ありがとう(ゴミ拾い)観察会 |
| 5月21日(金) | ・役員会 於:かてる2・7 18:00~ |
| 5月23日(日) | ・旭川自然観察会 旭川市外国樹種見本林 |
| 6月20日(日) | ・野幌自然観察会 野幌森林公園森の教室前 |
| 6月19日(土) | ・役員会 於:かてる2・7 13:00~ |
| 6月21日(月) | ・広報誌「エゾマツ」49号発行 |

旭川自然観察会

当別町（研修部長） 五十嵐 一夫

旭川市神楽の外国樹種見本林。1898年（明治31年）にストロームマツ、ヨーロッパカラマツ、ヨーロッパアカマツ、ヨーロッパトウヒの4種類の苗木を植栽して以来100年の歴史を持ち、50種類あまりの樹種が栽培されていて、そのうち30数種類が外国樹種です。

入り口には昨年オープンした三浦綾子記念文学館もあり、市民の憩いの森として親しまれています。

5月22日の土曜日に下見をしました。下川町の宮田さん、遠いところを参加いただきありがとうございました。23日の観察会には地元の室谷さん、札幌からは6人が駆けつけました。地元の新聞社への周知など特別なアプローチをしなかったことが災いしたのか一般参加者が少なく残念でしたが、天候に恵まれて、2時間ほどかけてゴミ拾いをしながら森の中を散策しました。

枯れ木でのんびり日向ぼっこのコムクドリのペア、たったひとつ残って咲いていたカタクリの大きな花が印象的でした。オオバナノエンレイソウの密度が高く、コマドリは頭上で美声を響かせています。一束三葉のリギダマツがあるはずです。

昔のリーフレットにちゃんと載っていたのですから。みんなでずいぶん探したけれど見つかりませんでした。枯れちゃったんでしょうか。

下見、本番で確認できた開花種15種、鳥13種、JR旭川駅から車で10分、美瑛川の堤防沿いに広がるこの森はすばらしいところです。地道に毎年観察会を続けたいフィールドのひとつです。

訂正とお詫び

前号（48号）、五十嵐氏の「平成10年度の自然観察会」の一文8ページに印刷ミスがありました。お詫びいたします。 ×トケイラン⇨○トケンラン

「けらつつき」との出会い

札幌市東区 菊池 秀樹

「けらつつき」または単に「けら」、これは「啄木鳥（つつき）」の古名です。去る3月14日（日）に野幌森林公園において「クマゲラ」の一斉調査があり、ボラレンからの参加者は樋口さん・小淵さん・近久さん・伊藤さんご夫妻、そして私でした。

当日は好天に恵まれ、スキーで歩くと汗ばむほどでした。瑞穂の池入口から同池までの区画数箇所の割当をいただき、沢筋に沿って歩き始めた頃からかすかにクマゲラの鳴き声が私の耳には届いていたのですが自信がなく、同行の方々に尋ねてもあまり同意を得られませんでした。

しかし、11:00頃からは、あきらかに彼のものと断言できるあの甲高い、そしてのどをしぼるような声が連続し、皆さんも今日はきっと姿も見られるなどという期待を持っていたのでした。果たして、11:40頃、あのキョロロ、キョロロという飛翔中独特の音が近づき、ついに水平に飛ぶ状態で斜め上空から姿を現してくれたのでした。ほんの一瞬のてきごとでしたが、大満足のうちに引き揚げ、意気揚々と報告してまいりました。ここ数年この調査に参加してきましたが、調査当日に姿を見たのは初めてでした。

続きまして、時は3月28日（日）、大沢コースからの観察会当日です。私ごとで恐縮なのですが、連日の送別会続きにより、当日朝遅刻をしてしまい、その罪の意識からフィールド・スコープを担ぎ、参加者の皆さんにサービスをいたしましょうとの魂胆からキタコブシやハウノキの新芽やエゾリスのかわいらしい姿を楽しんでいただいております。

エゾユズリハコースとの分岐を過ぎてほどなくクマゲラの声が響き、観察路を離れた樹上に止まってくれました。この時は残念ながら樹木が混み合っていて姿を確認することはできませんでした。

ところがです。今度は違いました。しっかりとその愛らしい姿をご披露してくれました。しっかりと皆さんに観察していただきました。スコープに眼を合わせ一巡二巡、中にはそれ以上に。私がカメラにセットする余地を与えてくれませんでした。「カワイー」「アイリングもくっきり、シアワセー!」。私の遅刻に対する罪の意識もこんなに役立ったのです。神様も結構味なことをなさってくれました。この幸せをつかんだのは後発の二つの班だけだったのでした。

観察終了後出発点に戻った時「ネェーネェー、クマゲラちゃんに会ったのよ!」と感激の報告。「だって私たち見てないもん」と他班から不満の声。このような不公平感をボラレンが与えてはいけませんよね。しかし、これはクマゲラちゃんに大きな責任があるわけですよ。私は観察会の前日には深酒をしてはいけないという一点だけの反省と今も信じているのですが。

会員の投稿を待っています

広報誌「エゾマツ」は会員の皆さんの意見や情報の交換の場でありたいものです。気張らず、日常の生活の中から、各地の季節の移り変わりから、各地の行事から等々投稿を待っています。

投稿先 〒007-0811 札幌市東区東苗穂11条2丁目897

広報部 田村 允郁



串田 孫一 他編

日本の名山I 大雪山

博品社 1998. 7. 31 発行

定 価 1600円+税

夏山のシーズンに入りました。登山を趣味としている方は、今年の山にあれこれと想いをめぐらし、登山計画を立てておられることでしょう。北海道に住んでいる私たちが道内の山々を連想するとき、いろいろな山を思い浮かべますが、その中で第一に大雪山をあげる人が多いことでしょう。

北海道の屋根といわれる「大雪山」は、道内第一の高山である旭岳（2290m）をはじめ、標高2000m内外の高峰が10座以上を含む大規模な山岳地帯の総称です。

「大雪山」は古来アイヌの人々によって「ヌタクカウシュベ」と呼ばれていました。この「ヌタクカウシュベ」に日本語の「大雪山」の名が与えられたのは、松原岩五郎が東京の出版社博文館から刊行（明治32年）した「日本名勝地誌」に「…山嶽中其高峻なるものを挙げれば、大雪山タイセツザン（ヌタクカウシュベ）なり…」から始まったと言われています。松原岩五郎は「大雪」を清音で呼んでいるので、それを尊重すれば「ダセツ」と濁音で呼ぶのは正しくないことになります。

さて、本著「日本の名山」全20巻の1巻目にあたる「大雪山」には、明治以降の山に係わる著名人、大町桂月、大島亮一、深田久弥、井手孫六や道内に関係した面々、中谷宇吉郎、坂本直行、更科源蔵のエッセイ・紀行文が並べられています。

この中の、立松和平の「神々の遊ぶ庭」の一文に次の一節があります。「…大雪山国立公園にくると、私たちが無自覚にか意識的にかどにかく失ってしまったものの素晴らしさを、ここで知ることができる。窺い知るのだとしても知ることができるのは、なんとも素晴らしいことではないだろうか。…」

北海道に住む私たちにとって、大雪山の魅力をさまざまな角度から知る上で楽しい一冊だと思います。

第14回 定期総会の報告

報告に先立ちまして、去る3月25日、大友会長が自家用車を運転中、脳梗塞の発作に見舞われ、倒れられました。

運転中の事でありましたが、人身事故は発生せず、車の破損程度で済んだことは、不幸中の幸いでした。現在、柏葉脳神経外科に入院加療中で、リハビリに励んでおり、一日も早く回復されることをお祈り申し上げます。

さて、平成11年4月10日（土）13:30から19:30まで、研修会、総会及び懇親会が行われました。

研修会は「札幌周辺の地質」自然の時間と都市の時間と題し、当会の総務部理事 大槻 日出男氏の講演がありました。

札幌周辺はもとより、北海道地域の中生代から3万年前の氷河期に至る地層の形成や化石などの標本と、スライドを交え、また現代の環境破壊への警鐘を、熱心に語られ聴講者一同、真剣に聞き入っていたのが、印象にのこりました。

定期総会は、定刻どうり開始、現在会員170名、出席者31名、委任状63名、合計94名で総会は成立しました。

川端会長代行の挨拶の後、北海道環境生活部環境室自然環境課の但野課長補佐からの挨拶がありました。

議長に簾内道夫さん、議事録署名人に北見の和泉勇さんが選任され、早速議事に入りました。

議案書は「えぞまつ」当号に掲載されております。

総会は各議案を佐藤事務局長から報告ならびに提案議題を説明し、異議なく原案どうり承認されました。

総会終了後は、「レストラン・ユック」に席を移し懇親会が開催され、野幌森林公園事務所の永安さんの乾杯の音頭でスタート、出席者の自己紹介や、和やかな歓談のうちに、北見支部の和泉勇さんの乾杯で閉会となりました。

事務局

北海道ボランティア協議会

第14回定期総会議案書

とき 平成11年4月10日(土) 15時～17時

ところ かでる2.7 7階 710号会議室

札幌市中央区北2条西7丁目 電話 011-231-4111

北海道ボランティア協議会事務局

〒061-2284 札幌市南区藤野4条7丁目277-74

電話 FAX 011-592-4222

平成11年度第14回北海道ホフアンター・レンジャー協議会定期総会

日時 平成11年4月10日 (土)

受付 13:00—13:30

研修会 13:40—14:40

総会 15:00—17:00

場所 かでる2.7 7階 710号会議室

定期総会 司会進行 総務部 稲葉 理事

定期総会次第 出席 委任状 総会成立確認 総務部

1. 開会のことば 佐藤副会長
2. 会長挨拶 川端会長代行
3. 来賓挨拶と紹介
北海道環境生活部環境室自然環境課 課長補佐 但野 五之 様
4. 議長選出と議事録署名人の選出
5. 議長就任挨拶と議事録署名人の紹介
6. 議事
議案1 平成10年度の事業報告
議案2 平成10年度の決算報告及び監査報告
議案3 平成11年度の事業計画案
議案4 平成11年度の予算案
議案5 会則の条文付加
議案6 その他
7. 議長退任
8. 閉会の言葉 佐藤副会長

連絡事項

議案 (1) 平成 10 年度事業報告

1. 北海道ボランティア協議会第 13 回定期総会 会員 179 名 出席、委任 139 名
平成 10 年 4 月 11 日 (土) 15:00-17:00 かでる 2.7 出席者 47 名委任 92 名
2. 北海道ボランティア協議会役員会
第 1 回平成 10 年 5 月 14 日 かでる 2.7 平成 10 年 7 月 6 日 三役会
第 2 回平成 10 年 9 月 9 日 サポートセンター 平成 10 年 12 月 14 日 三役会
第 3 回平成 11 年 1 月 22 日サポートセンター 第 4 回平成 11 年 3 月 20 日サポートセンター
3. 自然観察会 * 野幌森林公園内での観察会は公園事務所の協力を得てます
 - 旭川自然観察会 平成 10 年 5 月 24 日 (日) 地方支部との協力
 - 野幌自然観察会 平成 10 年 6 月 7 日 (日) 環境月間協力行事
 - 恵庭自然観察会 平成 10 年 6 月 21 日 (日)
 - 神威岬自然観察会 平成 10 年 6 月 28 日 (日) 地方支部との協力
 - ニセコ自然観察会 平成 10 年 7 月 12 日 (日) 地方支部との協力
 - 真駒内自然観察会 平成 10 年 8 月 2 日 (日)
 - 利根別自然観察会 平成 10 年 8 月 30 日 (日)
 - 宮城の沢自然観察会 平成 10 年 9 月 13 日 (日)
 - 野幌自然観察の集い 平成 10 年 9 月 27 日 (日)
 - 野幌の森の観察会 平成 10 年 11 月 15 日 (日)
 - 野幌の冬の観察会 平成 11 年 2 月 28 日 (日)
4. 会員研修
 - (ア) 研修会「北限のブナ林余話」講師川端功治氏 平成 10 年 4 月 11 日定期総会の前
 - (イ) 交流会 ニセコの自然観察会の下見のあと、懇談、スライド上映平成 10,7,12
 - (ウ) 自然観察会の下見 会員研修の実施と位置付けている
 - (エ) 国際フォーラム・ナチュラリストのつどいの参加 (自主参加)
5. 会報「エゾマツ」の発行
 - 第 45 号 平成 10 年 6 月 15 日 第 46 号 平成 10 年 10 月 12 日
 - 第 47 号 平成 11 年 1 月 15 日 第 48 号 平成 11 年 3 月 31 日
6. 支部・地方幹事との関連
 - 旭川、ニセコ、積丹、利根別、恵庭の観察会での協力を得る。
 - 地方幹事に連携のための通信費として、切手¥2,000 送付した
7. 関連団体への参加と協力
 - (ア) 北海道野幌森林公園事務所主催の「森の観察会」への協力
 - 4 月の森の観察会 4 月 16 日 (木)
 - 春の森の観察会 5 月 17 日 (日)
 - 野幌自然観察会 6 月 7 日 (日) 北海道と共催
 - 7 月の森の観察会 7 月 2 日 (木)
 - 8 月の森の観察会 8 月 6 日 (木)

- 秋の森の観察会 10月18日 (日)
 - 野幌の森の観察会 11月15日 (日)
 - 12月の森の観察会 12月3日 (木)
 - 1月の森の観察会 1月14日 (木)
 - 冬の森の観察会 3月28日 [日]
- (イ) 江別親子劇場野幌森林公園観察会協力 5月20日
- (ウ) 澄川幼稚園の保母さん9名への観察会の方法指導、西岡公園 5月28日
- (エ) 北海道環境財団に、会として「自然解説員」の登録
- (オ) 江別公民館春の自然観察会協力 5月29日
- (カ) 北海道新聞社・野幌森林公園取材協力 6月25日 掲載 7月1日
- (キ) 北海道ボランティア・レゾナ育成研修会 日高アボイ山荘、協力
- (ク) 道新フォレストウォッチング手稲北尾根観察会 協力 7月20日
- (ケ) 環境道民会議に加盟 8月24日、9月5日発足会
- (コ) 野幌森林公園観察会 石狩支庁主催 協力 9月5,6日
- (サ) 滝野公園観察会 生活クラブ南札幌支部 協力 9月12日
- (シ) 野幌森林公園観察会 手稲連町会 協力 9月26日
- (ス) オートリゾート研修会 講師 協力 佐々木アドバイザー 10月7日
- (セ) 江別公民館秋の自然観察会協力 10月20日
- (ソ) 野幌森林公園クマガラネ音調査への協力平成11年3月14日

8. 日月会員に退会勧告をした 10月26日

9. 備品 携帯無線機2台一組 事務局保管、双眼鏡15台 望遠鏡2台
 聴診器5本 携帯救急医療箱1個 以上野幌森林公園事務所公園課保管
 ホームページ作成用デジタルカメラ1台 樋口理事宅
 ファクス電話2台 (会長宅、事務局長宅)
 コピー機1台 事務局
 野幌森林公園自然観察ガイドブックは現在、170冊事務局で保管

10. 成田会員より研修部に シャツ20着の寄贈があった 11月16日

11. ホームページの開設 アドレス <http://www.sp.dianet.or.jp/~higuti>

12. ジーエス販売株式会社斎藤社長より寄付金 ¥100,000 3月5日

議案 (2) 平成 10 年度決算報告及び監査報告

平成 10 年度決算報告

収入の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
前年度繰越金	698,928	698,928	0	160 名
年会費	510,000	483,000	-27,000	
雑収入	41,072	193,897	152,825	
合計	1250,000	1,375,825	125,825	

雑収入 ガイドブック販売代金 ジーエス販売株式会社斎藤社長より寄付金

成田、田村氏よりの賛助金

保有資産 デジタルカメラ 一台 49,980 円 ファックス 2 台 99,600 円

コピー機 一台 77,490 円

寄贈を受けた品 携帯無線機 2 台一組 事務局保管、双眼鏡 15 台 望遠鏡 2 台

聴診器 5 本 携帯救急医療箱 1 個

支出の部

単位：円

項目	予算額	決算額	差額	摘要
総務部費	60,000	111,857	-51,857	
事務局費	260,000	326,180	-66,180	
研修部費	120,000	68,720	51,280	
活動費	50,000	37,000	13,000	
広報部費	300,000	183,510	116,490	
予備費	120,000	0	120,000	
積立金	340,000	0	340,000	
合計	1250,000	727,267	522,733	

総務部費 デジタルカメラ 事務局費 FAX 2 台 コピー機

収支残高

単位：円

項目	収入	支出	残高
実績	1,375,825	727,267	648,558

¥ 648,558 を次年度への繰越金とする。

平成 10 年度監査報告

監査報告につきまして、諸帳簿ならびに領収書などにつき、つぶさに確認、照合しましたが、相違なく正確かつ適正であることを認め、監査報告とします。

平成 11 年 4 月 3 日

監事 猪師 勉

監事 小泉 郁夫

議案 (3) 平成 11 年度事業計画案

1. 北海道ボランティア協議会第 14 回定期総会
平成 11 年 4 月 10 日 (土) かでの 2.7 で開催
2. 北海道ボランティア協議会理事会を年 4 回開催する、三役会は必要に応じて開催する
3. 自然観察会 * 野幌森林公園内での観察会は公園事務所の協力を得ています
野幌森林公園ありがとう観察会 平成 11 年 5 月 9 日 (日)
旭川自然観察会 平成 11 年 5 月 23 日 (日) 地方支部との協力
野幌自然観察会 平成 11 年 6 月 6 日 (日) 環境月間協力行事
恵庭自然観察会 平成 10 年 6 月 13 日 (日)
ニセコ自然観察会 平成 11 年 7 月 11 日 (日) 地方支部との協力
真駒内自然観察会 平成 11 年 7 月 25 日 (日)
利根別自然観察会 平成 11 年 8 月 29 日 (日)
宮城の沢自然観察会 平成 11 年 9 月 12 日 (日)
野幌自然観察の集い 平成 11 年 9 月 26 日 (日)
野幌森林公園ありがとう観察会 平成 11 年 11 月 14 日 (日)
野幌の冬の森観察会 平成 12 年 2 月 27 日 (日)
4. 会員研修
研修会 「札幌周辺の地質」自然の時間と都市の時間 講師 大槻日出男氏
平成 11 年 4 月 10 日 (土) 総会の前に実施
交流会 旭川自然観察会下見 平成 11 年 5 月 22 日 (土) の後
ニセコの自然観察会下見 平成 11 年 7 月 10 日 (土) の後

自然観察会の下見を会員研修と位置づけている

5. 会報「エゾマツ」の発行

会の目的、事業をふまえ、会の活性化を図るための啓発を紙面を通し主張していきます、会員の主張、感想、報告など広く収集し、内容がマンネリに陥らぬよう検討していきます。

特に今年度は会報 50 号発行にあたり特別企画を考えています。

啓発テーマは「自然との共存、21世紀に向けて」です。

年4回の発行をします。

発行日 年4回 4月 7月 10月 1月

6. 支部、地方幹事との連携

札幌支部から2名ほど人員を派遣し、地方支部と現地で観察会や交流会を開催し、地方支部との交流を図る。

年間2支部を予定、地方幹事の協力をお願いしたい。

7. 野幌の森ありがとう観察会 野幌森林公園事務所と共催 (5月9日)

野幌の森林・樹木・山野草と棲息する小動物を観察すると共に、捨てられたゴミ等を拾いながら、森林生態系への私たち人間の影響と、野幌の森への感謝を込めて自然との共存を考える。

平成11年5月9日(日) 10:00~15:00 大沢口

平成11年11月14日(日) 10:00~15:00 大沢口

8. 野幌森林公園事務所主催の観察会への協力及び参加

森の観察会 日曜日実施

- ありがとう観察会 平成11年5月9日 (ボラレンと共催)
- 秋の森の観察会 平成11年10月17日
- 野幌森林公園ありがとう観察会 平成11年11月14日(日) ボラレンと共催
- 早春の森の観察会 平成12年3月26日

森の観察会 木曜日実施

- 4月の森の観察会 平成11年4月15日
- 7月の森の観察会 平成11年7月1日
- 8月の森の観察会 平成11年8月5日
- 12月の森の観察会 平成11年12月2日

9. 各関係機関、団体が行う自然保護、環境の保全に係わる調査、研修への協力、参加

議案(4) 平成11年度予算案

収入の部

単位：円

項目	予算額	摘要
前年度繰越金		
年会費	648,558	会員数 160名
雑収入	480,000	
	121,442	
合計	1250,000	

支出の部

単位：円

項目	予算額	摘要
総務部費	120,000	通信費ほか
研修部費	120,000	観察会パンフレットほか
広報部費	300,000	会報の発行 4回
事務局費	150,000	事務用品、通信費ほか
活動費	200,000	地方支部との観察会、交流会の交通費
予備費	20,000	
特別会計	340,000	ガイドブック追加印刷ほか
合計	1250,000	

特別会計

項目	予算額	摘要
ガイドブック準備金	340,000	
合計	340,000	

議案 (5) 会則に条項を付加する

会則第2章 組織へ下記の条項を追加する

(会員)

第5条 この会の会員は、ボランティア育成研修会の受講者で年会費を納入した者とする
(2) 地方支部を組織することができる。

であり、次に第6条の(役員)続きますが以下、6から9条を追加する

(会員の資格喪失)

第6条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 当該年度内に会費を納入しなかったとき
- (3) 除名されたとき

(退会)

第7条 この会を退会しようとする者は、退会届を理事会に提出することにより、任意に

退会することができる。

(除名)

第8条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会において出席会員の3分の2以上の議決に基づき除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) この会の会則に違反したとき

(2) この会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき

(会費などの不返還)

第9条 会員が既に納入した会費その他の拠出金品は、返還しない

以上第6条から第9条を付加した場合は、役員第6条は第10条となり、以下順押しとなります。

議案 (6) その他

北海道ボランティア協議会 会則

第1章 総則

(名称)

第1条 この会は、北海道ボランティア協議会（以下「会」という）と称する。

(目的)

第2条 この会は、会員の自然観察及び自然保護に関する意識の高揚を図り、自然解説等を通じて自然保護思想の普及啓発に努め、関係機関と協力のもとに将来にわたって、北海道の自然環境の保全に寄与するとともに、併せて会員相互の親睦を図ることを目的とする。

(事業)

第3条 この会は、次の事業を実施する。

- (1) 自然保護に関する関係機関との連絡提携を図る。
- (2) 関係機関との連携及び会員相互の情報交換を図るために、会報を発行する。
- (3) 会員相互の資質の向上を図るため、研修会等を開催する。
- (4) その他、目的達成に必要な事業を実施する。

(事務所)

第4章 この会の事務所は、事務局長宅に置く。

第2章 組織

(会員)

第5条 この会の会員は、ボランティア育成研修会の受講者で年会費を納入した者とする
2 地方支部を組織することができる。

(会員の資格喪失)

第6条 会員が次の各号の一に該当する場合には、その資格を喪失する。

- (1) 退会したとき
- (2) 当該年度内に会費を納入しなかったとき
- (3) 除名されたとき

(退会)

第7条 この会を退会しようとする者は、退会届を理事会に提出することにより、任意に退会することができる。

(除名)

第8条 会員が次の各号の一に該当する場合には、総会において出席会員の3分の2以上の議決に基き除名することができる。この場合、その会員に対し、議決の前に弁明の機会を与えなければならない。

- (1) この会の会則に違反したとき

- (2) この会の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき
(会費などの不返還)

第9条 会員が既に納入した会費その他の拠出金品は、返還しない
(役員)

第10条 この会に、次の役員を置く。

会長	1名
副会長	2名
事務局長	1名
理事	若干名
監事	2名

- 2 地方支部を組織することができる。

(職務)

第11条 会長は、会を代表する。

- 2 副会長は会長を補佐し、会長不在の時はその職務を代行する。
3 事務局長は、この会の業務を統括（地方幹事との調整担当）する。
4 理事は、各部に属し、部の分掌事項を執行する。
5 監事は、会計を監査する。
6 各部の分掌は次の通りとし、副会長は各部を調整する。
総務部は、会計、渉外、庶務、その他を執行する。
研修部は、研修行事及び観察会に関することを企画し執行する。
広報部は、会報の発行に関することを企画し執行する。

(任期)

第12条 役員任期は2年とし、再選を妨げない。

- 2 任期満了後においても後任者の就任するまでは、その職務は行なわなければならない。

第3章 会議

(開催)

第13条 会議は総会及び理事会とし、総会は定期及び臨時の2種とする。

- 2 定期総会は年1回とする。
3 総会は会員を、又は理事会は理事をもって構成し、監事は理事会に出席することが出来る。

(権限)

第14条 総会は会長が召集し、次の事項を決議する。

- (1) 会則の制定及び改廃に関すること。
(2) 事業計画の策定並びに収支予算及び決算に関すること。

(3) その他総会で必要と認めた事項。

2 理事会は次の事項を決議する。

(1) 総会の決議した事項の細則。

(2) 総会に付帯すべき事項。

(3) その他必要な事項。

(議長)

第15条 総会の議長は、その総会の出席会員のうちから選出する。

2 理事会の議長は、会長があたる。

(定足数)

第16条 総会又は理事会は会員又は理事の二分の一以上の出席がなければ成立しない。

(議決)

第17条 総会の議事は、出席会員の過半数をもって決し、可否同数の時は、議長の決するところによる。

2 会議の議事録は、その都度作成する。

(委任)

第18条 総会に出席できない会員は、他の会員を代理人として表決を委任することができる。この場合において、前2条の規定の適用については出席したものとみなす。

第4章 事業執行及び会計

(事業年度)

第19条 この会の事業年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(会計)

第20条 この会の経費は、年会費・寄付金・その他によるものとする。

2 年会費の額は、総会により決定する。

付則

この会則は、昭和61年12月6日より執行する。

昭和63年 8月1日 改正

平成 元年 7月8日 一部改正

平成4年 8月8日 一部改正

平成5年 8月28日 一部改正

平成11年4月10日 一部付加

観察会研修会 情報

《平成11年度(7月~9月)開催・協力予定の自然観察会》

◎7月の森の観察会

7月1日(木) 10:00~12:00 (下見 6月24日)

集合場所 北海道開拓記念館前

◎真駒内自然観察会

7月25日(日) 10:00~12:00 (下見 7月18日)

集合場所 地下鉄真駒内駅前

◎8月の森の観察会

8月5日(木) 10:00~12:00 (下見 7月29日)

集合場所 北海道開拓記念館前

◎利根別自然観察会

8月29日(日) 10:00~12:00 (下見 8月22日)

集合場所 岩見沢市利根別自然休養林駐車場

◎宮城の沢自然観察会

9月12日(日) 10:00~12:00 (下見 9月5日)

集合場所 市バス平和の滝バス停平和霊園 奥の駐車場

◎野幌自然観察の集い

9月26日(日) 10:00~12:00 (下見 9月19日)

集合場所 野幌森林公園 森の停平和霊園 奥の駐車場

会員の参加協力で観察会を充実させましょう!

ニセコの自然 沼めぐりハイク (ニセコ自然の会協力)

◆日時 ・平成11年7月11日(日) 11:00~15:00

◆集合場所 ・共和町神仙沼休憩駐車場

◆コースタイム

駐車場(11:05) 神仙沼分岐(11:25) 長沼(11:00) ビーナスの丘(12:25) 昼食
(12:40) シャクナゲ沼(13:10) ビーナスの丘(13:30) 長沼(14:05) 神仙沼分
岐(14:20) 神仙沼(14:30) 駐車場(15:00)

◆その他 ・昼食持参(ふきのとう、鮎根、当帰、ふきのとう汁(臍) 雨天時にはコース変更あり

《下見について》

◆下見は、7月10日同時刻で、昼食を各自持参ください。なお、15:15より
大谷地の観察会があります。

17:00 温泉入浴

18:30 夕食交流会

20:00 スライド観賞

翌日11日朝

06:00 バードウォチング

08:00 朝食

09:30 出発(弁当の用意を手伝っていただける方は10:30)

◆長沼-シャクナゲ沼の新しく見られる植物

マルバシモツケ カラスシキミ フギレオオバキスミレ キバナシャクナゲ
コケモモ イワイチョウ エゾシオガマ ウコンウツギなど

◆宿泊希望者は、喫煙の有無も併せて、7月6日までに五十嵐(TEL01332-3-0604)
まで連絡ください。

1泊3食 温泉入浴券付 8,000程度の予定

ニセコの自然が呼んで出ている。多くの会員の参加を!

人と自然との橋渡し役セミナー in 美瑛

はじめて自然の神秘性にふれたときの驚きや感動を覚えていますか。

自然環境を守っていくためには、私たちの自然に対する意識改革が必要です。「自然ってなんてスゴイんだ！自然ってすばらしい！」と、自然にふれ、自然の神秘性に感動し、自然を慈しみ、自然を大切にしないでという心を育てることが大事です。そこで重要になるのは、人と自然を引き合わせるきっかけづくり…。

北海道の恵まれた自然環境を守っていききたいという願いから、本研修会は各地で開催される自然観察会等において、人々が自然にふれるきっかけを創っていく人材を育てていくものです。

さあ、あなたも人と自然との橋渡し役をするボランティア・レンジャー（自然解説員）になってみませんか。

日 程：平成11年7月16日（金）13:10～18日（日）14:30

場 所：国立大雪青年の家（〒071-0235 上川郡美瑛町字白金）

対 象：満18歳以上で、自然に興味・関心があり、自然観察会等で今後ボランティア活動をしたという意欲のある方。

募集人員：40名（申し込み多数の場合は抽選）

参加費用：5,000円程度（宿泊代、交流会費）※現地までの交通費は各自負担。

※当日は現地集合、現地解散。研修場所までの交通機関は、旭川駅-白金温泉間のバス（道南バス）又は、自家用車。

*****研修内容と講師（予定）*****

2泊3日の研修。室内講義や野外実習、プランニングなど盛りだくさんの研修内容となっています。講師には北海道内で自然案内人として、また各団体のリーダーとして活躍されている方々をお招きします。

1日目 大雪山ネイチャーガイドの塩谷秀和氏の自然ガイドを体験します。夜はスライドショー。

講師：塩谷 秀和 氏（大雪山ネイチャーガイド）

2日目 朝から野外実習があります。自然解説の技術・方法・心得などを学びます。

◆朝の野外実習

講師：住友 順子氏（日本野鳥の会札幌支部事務局長）、荻野 裕子氏（日本野鳥の会札幌支部）
越後 弘氏（日本野鳥の会 滝川支部 支部長）

◆昼の部

講師：川端 功治氏（北海道ボランティア・レンジャー協議会副会長）、五十嵐 一夫氏（北海道ボランティア・レンジャー協議会研修部）、野呂 一夫氏（北海道ボランティア・レンジャー協議会/環境庁環境カウンセラー）

◆夜の部

講師：廣田 まゆみ 氏（ネットワークオフィス主宰/NPO推進北海道会議理事）

3日目 プランニング実習をします。自然解説の素材探、解説（発表）の体験。

講師：平松 美由起 氏、宮川 哲治 氏（エコ・ネットワーク）

受講申込方法 往復ハガキに「美瑛セミナー」受講希望と明記し、下記の内容を記入して、(財)北海道環境財団までお送りください。申込締切6月30日(必着)。持参可。

※電話やfaxでの受付はいたしませんので、御了承ください。

氏名(フリガナ)、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業、性別、研修場所までの交通手段

申込・問い合わせ先 〒060-0807 札幌市北区北7条西5丁目5番 札幌千代田ビル4F
(財)北海道環境財団 担当 高橋、東郷 TEL 011-707-7011

主催：北海道、(財)北海道環境財団 協力：国立大雪青年の家

平成11年度 ボランティア・レンジャー育成研修会実施要領

1 目的

北海道の恵まれた自然環境を将来にわたって保全し次世代に引き継ぐためには、自然の素晴しさや自然のしくみ・はたらきについて理解し、自然保護思想の高揚を図ることが必要である。本研修会は、各地で開催される自然観察会等において、住民が相互に自然への理解を深め合うボランティア活動の促進を図るため、自然保護の基礎的知識や技術等を普及し、人と自然との橋渡し役をするボランティア・レンジャー（自然解説員）を育成する。

2 主催

北海道
(財)北海道環境財団

3 協力

国立大雪青年の家

4 開催月日及び場所

開催月日 平成11年7月16日(金)～18日(日)
開催場所 国立大雪青年の家(上川郡美瑛町字白金)

5 対象者

満18歳以上で、自然に興味・関心があり、自然観察会等で今後ボランティア活動をしていきたいという意欲のある方。

6 募集人員

40名

7 研修内容

- (1) 北海道の自然のなりたちやその変遷の歴史等について基礎知識を習得する。
- (2) 自然解説の意義・役割を確認する。
- (3) 自然解説の方法や技術について研修する。
- (4) 自然観察や自然解説等を実際に体験する。

8 講師

氏名	所属・職名等
塩谷 秀和	大雪山ネイチャーガイド
住友 順子	日本野鳥の会 札幌支部 事務局長
荻野 裕子	日本野鳥の会 札幌支部
越後 弘	日本野鳥の会 滝川支部 支部長
川端 功治	北海道ボランティア・レンジャー協議会 副会長
五十嵐 一夫	北海道ボランティア・レンジャー協議会 研修部
野呂 一夫	北海道ボランティア・レンジャー協議会/環境庁環境カウンセラー
廣田 まゆみ	ネットワークキングオフィス主宰/NPO推進北海道会議理事
平松 美由起	エコ・ネットワーク
宮川 哲治	エコ・ネットワーク

9 受講証書の交付

研修を終了した者に対し受講証書を交付する。

10 受講申込み

受講を希望する者は、往復はがきに以下の内容を記入し、平成 11 年 6 月 30 日必着で、(財)北海道環境財団あてに申込みをする。申込受付期間 6 月 1 日～30 日 (必着)

氏名 (ふりがな)、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業、性別、研修場所までの交通手段

11 受講者の決定

受講者が募集人員を超えた場合は、抽選により受講者を決定する。
なお、補欠者を 5 人程度決定し、受講辞退者がでた場合は順次補欠者から受講者を決定する。

12 その他

研修会参加に要する費用 (食費、宿泊費、交通費等) は、受講者の負担とする。

研修・宿泊場所：国立大雪青年の家

〒071-0235 北海道上川郡美瑛町宇白金

TEL 0166-94-3121/FAX 0166-94-3223

平成11年度 ボランティア・レンジャー育成研修会日程表

7月16日(金)

時 間	(分)	内 容	講 師
13:10 ～14:00	50	開講式・オリエンテーション	※進行:事務局
14:00 ～14:30	30	休憩・部屋へ移動	
14:30 ～16:30	120	講義「大雪山・北海道の森と自然案内」 実際に自然ガイドを体験し、その手法を学ぶ。 また、大雪山周辺の自然を例に、北海道の自然成 り立ちや生態系の仕組みについて知る。	塩谷秀和氏 (大雪山ネイチャーガイド)
16:30 ～16:45	15	休憩	
16:45 ～18:15	90	ワークショップ 「自然解説ってなんでしょ？」	※進行:事務局
18:15 ～19:00	45	夕食	
19:00 ～20:30	90	スライドショー 「大雪・十勝の森と野生生物」 大雪・十勝周辺の自然の特徴を知る。	塩谷秀和氏 (大雪山ネイチャーガイド)
20:30 ～21:30	60	交流会(～22:00まで自由時間)	

7月17日(土)

時 間	(分)	内 容	講 師
6:00 ～8:00	120	野外実習「十勝連峰の朝を感じよう！」 バードウォッチングをしながら、朝の音、朝の におい、朝の顔…見て、聞いて、ふれてみる。 (五感で朝を感じる)	住友順子氏 (日本野鳥の会 札幌支部 事務局長) 荻野裕子氏 (日本野鳥の会 札幌支部) 越後弘氏 (日本野鳥の会 滝川支部 支部長)
8:00 ～9:00	60	朝食・休憩	
9:00 ～9:30	30	清掃	
9:30 ～10:30	60	講義「鳥からみる世界」 鳥を通じて、自然全体を感じ、そして伝える技 術を知る。	住友順子氏 (日本野鳥の会 札幌支部 事務局長)
10:30 ～10:45	15	休憩	
10:45 ～12:45	120	講義「自然解説するには」① ① 解説員の心構え ② 準備・人を引きつけるテクニック・道具など の紹介	五十嵐一夫氏 (北海道ボランティア・レンジャー協議会研修部) 川端功治氏 (北海道ボランティア・レンジャー協議会副会長)

時 間		内 容	講 師
12:45 ～13:30	45	昼食・休憩・移動	
13:30 ～17:30	240	野外講義「自然解説するには」② 午前中の講義内容を実際に野外で体験する。講師に自然解説をしてもらい、「こういうときにこんなことができます」的なアドバイスもしてもらう。次の日の実習におけるヒント・素材探しもできる。講師の解説方法にふれる。	川 端 功 治 氏 (北海道ボランティア・レンジャー協議会副会長) 五十嵐 一 夫 氏 (北海道ボランティア・レンジャー協議会研修部) 野 呂 一 夫 氏 (北海道ボランティア・レンジャー協議会/ 環境庁環境カウンセラー)
17:30 ～18:30	60	移動・休憩・夕食	
18:30 ～20:00	90	講演「良いリーダー・スタッフになるためのコミュニケーションとは？」 自然解説員として、グループなどで活動していく上で、重要なコミュニケーションの方法について学ぶ。	廣 田 まゆみ 氏 (ネットワークングオフィス主宰) (NPO推進北海道会議理事)
20:00 ～21:00	60	交流会(～22:00まで自由時間)	

7月18日(日)

時 間		内 容	講 師
	(分)		
6:00		起床	
6:30 ～7:00	30	清掃	
7:00 ～8:00	60	プランニング実習	※進行:事務局
8:00 ～9:00	60	朝食等(荷物移動)	
9:00 ～12:00	180	プランニング実習 「感じたことを伝えてみよう！」 グループワーク:受講者が解説素材をさがし、実際に伝えてみる。(発表)	平 松 美由起 氏 (エコ・ネットワーク) 宮 川 哲 治 氏 (エコ・ネットワーク)
12:00 ～13:00	60	昼食・休憩	
13:00 ～14:00	30	アンケート・シェアリング	※進行:事務局
14:00 ～14:30	30	閉講式	

平成11年度フォレストガイド養成講座実施要領

1 目的

地域で森林を利用する人々に森林や緑についての知識を解説する「みどりの指導者」を養成するため、フォレストガイド養成講座を開講する。

2 実施場所および実施期間

フォレストガイド養成講座Ⅱ

森林の仕組みと機能、森の動植物、森林レクリエーションなどの専門的学習。

本 場 10月5日～10月8日 4日間

3 対象者

「みどりの指導者」を志す人。

4 講座内容

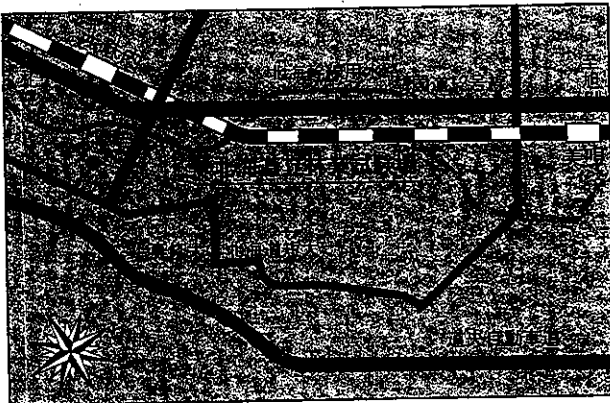
別記1のとおり。

5 受講申し込み

受講を希望される者、または受講を希望する者の所属長は別記2の受講申込書により、支庁長を経て、開催日の2週間前までに、林業試験場長に申し込みをする。

6 その他

本講座の受講に要する経費のうち、テキスト代は道が負担する。



■交通機関

J R・函館本線光珠内駅下車
徒歩10分

中央バス・美唄駅前発専大行き
林業試験場下車

・美唄発札幌(岩見沢)行き
専大入口下車 徒歩5分

・札幌(岩見沢)発美唄(滝川)行き
専大入口下車 徒歩5分

フォレストガイド養成講座（Ⅱ）

講座内容と日程

時 日	9:00	12:00 13:00	17:00
第 一 日 目			<p>《開講式》13:00～13:30</p> <p>《室内講義》13:30～17:00 森林の施業 (1)森林施業の必要性 (2)森林の機能と取扱い</p>
第 二 日 目	<p>《室内講義》9:00～12:00 森林の動植物 (1)森林の動物 (2)森林の微生物ときのこ (3)森林の昆虫 (4)森林の土壌 (5)川と森林の結びつき</p>		<p>《室内実習》13:00～17:00 森林の中の素材を生かした工作 (1)葉脈しおり (2)木の葉メール (3)松かさを使った工作</p>
第 三 日 目	<p>《現地実習》9:00～12:00 フォレストガイドの方法と技術 (1)動植物の観察 (2)森林の見方と施業 (3)森林の中での遊びと学習 (4)事故防止と応急手当</p>		<p>《現地実習》13:00～17:00 フォレストガイドの方法と技術</p> <p>左 同</p>
第 四 日 目	<p>《室内講義》9:00～11:30 森林の利用 (1)森林浴とアメニティー (2)フォレストガイドと森林林業教育</p> <p>《閉講式》11:30～12:00</p>		

フォレストガイド養成講座受講申込書

平成 年 月 日

北海道立林業試験場長 様

(所 属)

(所属長または氏名)

印

次の講座を受講したいので申し込みます。

希望する講座名 (該当欄に○を付けてください。)

- 1 フォレストガイド養成講座 (I)
- 2 " (II)

所 属				〒	-	-
受 講 者 氏名(フリガナ)				年 齢	才	
受 講 者 住 所				〒	-	-
主 な 職 種			経 験 年 数			
適 要	(講座に希望すること等を記入してください。)					
	宿 泊	前 泊	1 日 目	2 日 目	3 日 目	(○を付す)

***** 編 集 後 記 *****

◆天気の良い日、森に入ると、エゾハルゼミの鳴き声に初夏の季節を感じます。

自然の恩恵に感謝し、個々人が自然に何ができるか考えていきましょう。

◆平成11年度の活動が始まりました。人と自然の関わりが大きく叫ばれている割には、その実践活動が伴わない昨今ですが、本会ではゴミを拾う活動を取り入れた活動に取り組み始めました。ゴミの問題・ダイオキシンの問題等々、人間社会が引き起こしたこれらの問題を、私たちの会なりに考え、対応していきたいものです。

◆人と自然の関わりについて、広報部として何ができるか考えてみました。「自然との共生、21世紀へ向けて」のテーマを掲げました。今年一年このテーマのキャンペーンを広げていきます。

北海道ボランティア・レンジャー協議会

会報誌「エゾマツ」49号 1999.6.20 発行

発行責任者 大友 健

(表紙絵 広報部 三崎 篤)



Tibicen bihamatus